

「シジュウカラの営巣(1)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

北軽井沢の私の山荘には、フクロウ用の巣箱と、シジュウカラ・ヤマガラ用の巣箱の2種類が設置され、それぞれにカメラが設置してある。カメラはネットワークサーバーに接続され、インターネット経由で、常に内部を観察できるようにしてある。



巣箱は裏庭の物置の壁に設置してある。周囲は、野鳥の多い、カラマツとシラカバの森になっている。



すでに骨董的な価値のある巣箱だが、毎年営巣率100%の実績。上部の細長い部分にカメラがあり、電源やLANケーブルが接続してある。



実はこの巣箱、過去に何度もヘビの被害に遭っている。写真はその決定的瞬間。狭い巣口なので、入ってくるのは、大抵はアオダイショウの子ども(赤矢印)である。ヘビが入ってくると、親鳥はもう何もできない。威嚇声をあげながら、巣の周りを飛び回るだけだ。私も東京にいたので、助けられなかった。雛はかなり育っていたのだが、この時は、結局30分ほどの間に、全部ヘビに飲まれてしまった。

ヘビは、樹木を伝って、物置の屋根から侵入したと思っていた。しかし、ヘビがジャンプできるような木は近くになく、地面からしか考えられなかった。



背筋力の強いヘビでも、さすがに垂直な壁は登れない。あとから別のカメラで確かめると、巣箱に向かって地面から斜めに張られた電源コードを伝って、ヘビが登っていったことがわかった。

今年は、ヘビが絶対に登れないように、コード類をすべて壁に密着させ、更に滑りやすいように蠟も塗っておいた。念のために、周囲にヘビの禁忌剤もまいてある。これで、突然変異で羽の生えたヘビ以外は、巣箱に近づけないだろう。さて、今年もシジュウカラかヤマガラが入ってくれるだろうか？